

## 2 大阪市スポーツ行政の問題点、課題（第1期計画の進捗状況）

### 1 目標達成状況

- スポーツ実施率（週1回以上）は40～50%台で推移しており、目標を下回っています。
- 年代別にみると、実施率が低かった現役世代のスポーツ実施率の向上も一部みられ、スポーツ人口のすそ野は広がりつつあります。一方、運動・スポーツをしていない人も一定割合みられ、二極化が改善されていません。
  - ・みるスポーツ（直接観戦率）：約1～3割、ささえるスポーツ（ボランティア実施率）：約1割

### 2 方針ごとの進捗状況

#### 方針1 スポーツによる健康増進

- 週1日以上運動・スポーツ実施率は、平成29（2018）年度以降、若い世代を中心に実施率が向上した年代もあり、全体的な底上げがみられています。一方で、子どもの体力やスポーツ・運動をすることが好きな割合は、ほぼ横ばいとなっている状況です。
- 「スポーツスタートアップ事業」や「アイスショーやスケート教室」等、スポーツ実施率の低かった30～40歳代の女性や子育て層への戦略的なアプローチを展開してきましたが、次の一步として、ターゲットを明確にした情報発信や市内の企業の健康づくりに取り組む企業の普及・促進等、長期的な視点での戦略的なアプローチが必要です。

強化：「ライフスタイル別取り組み」「健康づくりに取り組む企業の普及促進」「スポーツ情報の発信」

#### 方針2 スポーツによる都市魅力の向上

- 大規模競技施設の集積、競技団体とのネットワーク等を活かし、国際大会等の大規模競技大会の招致・開催を進めており、大阪マラソンなど認知度や観戦率の高い大会がある一方、その他の大会においては1割以下の認知度、観戦率となっており、「スポーツへの興味・関心」の高まりにつながっていない状況です。
- コロナ禍での課題や制約も多い中、東京2020大会等の開催に向けた機運醸成、国際交流や人材育成を進めており、開催後も継続してレガシーの創出を図っていくことが重要です。
- 「大阪マラソン」や「大阪城トライアスロン」のさらなる魅力向上・発信とともに、これらの大規模競技大会を活かしたスポーツツーリズムの展開や情報発信が必要です。
- トップアスリートのパフォーマンスを、最高の条件で「みる」機会を提供できるよう、大規模競技施設のポテンシャルを維持し、新たなスポーツ大会の誘致、イベント開催など都市魅力の向上に向けた取り組みが必要です。

強化：「大阪マラソンの進化」「スポーツツーリズム」「スポーツ施設の魅力向上」

### 方針3 スポーツによる地域・経済活性化

- 「舞洲プロジェクト」をはじめ、民間団体や地元スポーツチーム等と連携して、地域スポーツの振興を通じた地域活性化を進めていますが、市民の「スポーツへの興味・関心」の高まりの実感につながっていません。取り組みの内容や成果等の戦略的な情報発信や、活動の発表・情報交換の場・機会づくりなど、スポーツを通じた人と人のつながりづくりも必要です。
- 民間団体や企業、関係機関と連携した、スポーツによる経済活性化(スポーツ施設のプロフィットセンター化、スポーツチームとの新事業の開拓、他産業とのビジネスマッチング)はまだ検討段階で、今後の展開が重要です。
- 市内に集積する大規模競技施設においては、試合のない日でも賑わいを創出する拠点としてさまざまなコンテンツを提供するなど、スポーツ施設を活用した地域のまちづくりをめざした取り組みが必要です。

強化: 「地域×スポーツによるまちづくり」「スポーツ施設を活用した地域活性化」

## 3 第2期計画策定にあたって

これまでみてきた、「1 スポーツを取り巻く社会状況の変化」や「2 大阪市のスポーツ行政の現状と課題」を踏まえ、大阪市のこれまでの取り組みや成果、また大阪市の強みや魅力を活かしたスポーツ施策を戦略的に進めていくために、第2期計画策定にあたっては、特に以下の点に留意しました。

### ● 国の第3期スポーツ基本計画、府の第3次計画策定の動きを踏まえた計画検討

並行して進められている、国の「第3期スポーツ基本計画」や大阪府の「第3次大阪府スポーツ推進計画」策定に向けた動向を踏まえつつ、大阪市の特性や地域のニーズに応じたスポーツの施策の方向性を示していくこととします。

### ● ウィズコロナ、ポストコロナ時代の新しいライフスタイルを見据えた市民のスポーツライフとスポーツ行政のあり方の検討

新型コロナウイルス拡大により、人々の日常生活や仕事などの行動、さらには社会全体に大きな変化が生まれました。今後、これまでの影響なども十分に考慮し、ウィズコロナ、ポストコロナ時代の新しいライフスタイルを見据え、安心・安全な市民のスポーツライフと、それをささえるスポーツ行政のあり方についても、関係機関等と連携して検討を進めていきます。

### ● 体力づくりによる健康の維持・増進の促進

体力は、人間の健全な発達・成長を支え、より豊かで充実した生活を送る上で大変重要なものであり、活発な身体活動を行うことは運動・スポーツに親しむ身体能力の基礎を養うとともに、病気から身体を守る体力を強化し、より健康な状態をつくっていくことにもつながります。

自らの意志でスポーツに取り組むことで自身の体力づくり、ひいては健康の維持・増進につながることを意識できる市民が一人でも増えるよう、市民のスポーツの習慣化を支援します。

### ● ターゲットを定めたきめ細やかな戦略的アプローチ

多様化する市民のスポーツニーズやスポーツライフに対応するため、ターゲットを定めたきめ細やかなアプローチを継続的に行うとともに、市民アンケート結果を踏まえ、スポーツ情報の発信の強化に取り組みます。

### ● 大阪市の強みである集積した大規模競技施設と観光やスポーツの魅力資源を最大限に活用

大阪市には、国際競技大会などの大規模競技大会の開催が可能な競技施設が集積しており、それらのスポーツ施設を活用した取り組みは、市民アンケートの結果からも、市民が求めている強化すべき取り組みと考えています。スポーツ施設や大阪マラソンなどの知名度の高いスポーツ大会といったスポーツ資源のほか、大阪城をはじめ食や文化芸術などの観光資源を最大限に活かした取り組みを進めます。

また、大阪市を拠点に活動するスポーツチームや企業等とのこれまでの連携実績を活かし、より一層、市民のスポーツへの興味関心を高め、スポーツを楽しめる取り組みを行っていきます。

### ● 2025年大阪・関西万博を契機とした施策展開

大阪・関西万博のインパクトや集客力を活かした、大阪のスポーツ都市としての魅力発信を行うとともに、万博後もスポーツを通して生きる喜びや楽しさを感じ、共にいのちを高めていく共創都市をめざし取り組みます。

### ● 取り組みの効果を測る指標等の設定

スポーツ実施率の目標を達成するため、これまでも民間団体や関係機関等と連携しながら、さまざまな取り組みを進めた結果、一定の効果がみられる一方で、単発で終わるなど、市民のスポーツ活動等の継続性や発展、全市への広がりなどにはうまくつながっていないことや、進んでいない取り組みもみられることから、取組状況をモニタリングするために、具体的施策に参考となる指標を設定し、着実に目標を達成できるように、適切な進行管理体制を整えます。